

# 荒川源流探検

## 二瀬ダム・浦山ダム・三峯神社見学会



二瀬ダム



秩父湖

荒川は、その水源を秩父山地の山梨県(甲斐)、埼玉県(武蔵)、長野県(信濃)境にある甲武信ヶ岳(標高 2,475m)に発し、奥秩父特有の深いV字渓谷を流下して秩父盆地を北流し、長瀬を経て寄居附近から関東平野をほぼ南に流れて東京湾に注ぐ、流路延長 173km、流域面積 2,940 km<sup>2</sup>の我が国の代表的な急流河川のひとつで、その名のとおり荒れる川として昔から数多くの水害の歴史をとどめています。特に明治 43 年の水害は激しく、「埼玉県史」によれば、この洪水で荒川の堤防は右岸で 16ヶ所、左岸で 19ヶ所も決壊し大きな被害を出したと伝えられています。このためこれを契機に、翌年から直轄で荒川改修工事が始められ、引き続いて大正 12 年には荒川放水路が掘られ、また熊谷から下流の河道整備等の改修が順次行われ、昭和 29 年をもってこれら一連の工事は完了を見ました。しかし、この改修工事の最中、昭和 22 年カスリーン台風の時に計画高水流量を上回る出水がありました。そこで昭和 25 年に「荒川総合開発計画」が立てられ、埼玉県及び東京都の水害に備えることとなりました。この荒川総合計画の中心事業が二瀬ダムの建設です。

今回は、荒川の最上流にある二瀬ダム、浦山ダム及び三峯神社を見学します。

下記のとおり実施しますので多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日 時	令和 4 年 8 月 7 日 (日)	7:30 集合・出発 (JR 新小岩駅 東北広場)
集合場所	JR 新小岩駅 東北広場 (裏面地図参照)	
参加費	1,000 円 (資料、交通費の一部として)	
募集人数	35 名 (先着順)	<a href="mailto:eizoutoshikeikaku@gmail.com">eizoutoshikeikaku@gmail.com</a> 携帯 080-4006-8819
行 程	7:00	なぎさニュータウン (なぎさニュータウンにお住まいの方)
	7:30	JR 新小岩 東北広場 出発 (集合次第出発します)
	12:00	二瀬ダム・三峯神社・浦山ダム 順次見学
	15:00	帰路
	18:30	JR 新小岩 東北広場
	19:00	なぎさニュータウン

※昼食は各自持参願います。特に昼食時間を設けておりません。適宜お召し上がり下さい。  
※交通状況により行程及び時間等、変更することがあります。ご理解・ご協力願います。

主催 市民防災まちづくり塾実行委員会・関東地域づくり協会

## 二瀬ダム

二瀬ダムは、その高さ95m、天端幅288.5m、コンクリート打設量356,000m<sup>3</sup>の重力式アーチダムで、総貯水容量26,900,000m<sup>3</sup>、有効貯水容量21,800,000m<sup>3</sup>の貯水池によって計画高水流量毎秒1,500m<sup>3</sup>の46%に相当する毎秒700m<sup>3</sup>の洪水をカットすることにより下流の洪水防止に役立てるほか、貯水池からの放流によって下流熊谷市附近の大里、元荒川、櫛引、本島地区を併せた8,603haのかんがい用水の確保を図り、さらにダム直下に設けられた最大出力5,200kw/hの発電所(東京発電(株)管理)によって、年間最大17,487Mwhの発電を行うことができます。



## 三峯神社



三峯神社の由緒は古く、当山大縁起によると日本武尊(やまとたけるのみこと)が伊弉諾尊(いざなぎのみこと)・伊弉册尊(いざなみのみこと)をお祀りしたのが始まりと伝わります。景行天皇の命により東国平定に遣わされた尊は、甲斐国(山梨)から上野国(群馬)を経て、碓氷峠に向われる途中三峯山に登り、山川が清く美しい様子をご覧になり、国をお生みになされた二神をおしのびになって仮宮を建てお祀りし、この国が永遠に平和であることを祈られました。この時、尊を道案内したのが狼(山犬)であったとされ、神様の使いとして一緒にお祀りされています。その後、景行天皇は日本武尊が平定した東国を巡幸された折に三峯山に登られ、三山高く美しく連なる

ことから「三峯の宮」の称号をたまわりました。降って文武天皇の時、修験の祖役小角(おづぬ)が伊豆から三峯山に往来して修行したと伝えられています。この頃から当山に修験道が始まったものと思われます。淳和天皇の時には、勅命により弘法大師が十一面観音の像を刻み、社殿の脇に本堂を建て本地堂としました。こうして徐々に佛教色を増し、神前奉仕も僧侶によるものが明治維新まで続きました。鎌倉期から畠山重忠などの東国武士を中心に篤い信仰をうけていましたが、正平7年(1352)足利氏を討つ兵を挙げた新田義興・義宗等が、戦い敗れ当山に身を潜めたことから、社領を奪われ、山主も絶えて、衰えた時代が140年も続きました。文亀二年(1503)、修験者月観道満がこの荒廃を嘆き、27年という長い年月をかけて全国を行脚し、復興資金を募り社殿・堂宇の再建を果たしました。天文2年(1533、)山主龍榮が京都の聖護院へ参じ、「大権現」の称号をたまわって、坊門第一の霊山となりました。以来、天台修験の関東総本山となり観音院高雲寺と称しました。更に、観音院第七世の山主が京都花山院宮家の養子となり、以後の山主は、十万石の格式をもって遇れました。現在社紋として用いている「菖蒲菱(あやめびし)」は花山院宮家の紋であります。やがて、享保5年(1720)日光法印という僧によって、「お犬様」と呼ばれる御眷属(ごけんぞく)信仰が遠い地方まで広まりました。以来信者も全国に広まり、三峯山の名は全国に知られました。その後明治の神佛分離により寺院を廃して、三峯神社と号し現在に至っています。

## 浦山ダム

浦山ダムでは、ダム地点の計画高水流量(およそ100年に1度起こりうる洪水の規模)1,000m<sup>3</sup>/秒のうち、890m<sup>3</sup>/秒をダムで貯め(洪水調節という)、ダム下流への放流量を110m<sup>3</sup>/秒に減らすことにより下流域の洪水被害の軽減を図ります。なお、洪水調節は、常用洪水吐きという「穴」から少しずつ放流されますが、ゲートによる放流量の調節は行われないことから自然調節方式と言われる方式で行われます。河川の流量が豊富な時にダムに貯留し、逆に不足している時にダムから補給することにより荒川沿川の既得取水(古くから取水されている農業用水等の取水)が安定してできるように、また河川環境の保全等のために必要となる流量が確保できるようにします。秩父市の水道用水として最大0.234m<sup>3</sup>/秒、埼玉県の水道用水として最大2.696m<sup>3</sup>/秒、東京都の水道用水として最大1.170m<sup>3</sup>/秒、合計4.1m<sup>3</sup>/秒の取水が可能となるようにします。これは一人一日当たりの平均水使用量を305リットルとすると、約116万人分の使用量に相当します。水力発電が、東京発電(株)により行われます。ダムからの放流水(最大4.1m<sup>3</sup>/秒)を利用して最大出力5,



## 新小岩駅東北広場案内図



### 集合場所

JR新小岩駅北口から北口連絡通路を渡って、ロータリー広場にお集まりください。

